

平成28年第2回長万部町総合教育会議（議事録）

- 1 開催日時 平成28年11月2日（水）
開会：午前10時00分 閉会：午前11時20分
- 2 開催場所 長万部町役場2階庁議室
- 3 議題 《報告事項》
 - (1) 学校運営協議会制度（コミュニティ・スクール）の進捗状況について
 - (2) 学校給食の運営状況について
 - (3) その他
- 4 出席委員 町 長 木 幡 正 志 教育委員長 北 山 陽 子
教育委員 村 上 学 教育委員 小 野 雄 二
教育委員 大 山 喜美子 教 育 長 鈴 木 祐 司
- 5 欠席委員 なし
- 6 会議に出席した事務局職員等
事 務 局 本 前 武 広（総務課長）
事 務 局 佐 藤 久（総務課総務係長）
説 明 員 岡 野 喜美雄（学校教育課長）
説 明 員 佐 藤 修（社会教育課長）
説 明 員 米 代 剛（学校教育課主幹兼学校教育係長）
説 明 員 前 田 和 也（学校給食センター学校給食係長）
- 7 傍聴者 なし
- 8 議事の経過 別紙のとおり

開会

●事務局（総務課長）

皆さんおはようございます。ご案内の時間となりましたので、ただ今より平成28年第2回長万部町総合教育会議を開会いたします。

はじめに、町長から開会にあたってのご挨拶をお願いいたします。

●木幡町長

おはようございます。本日は、大変ご多忙のところ、長万部町総合教育会議にご出席を頂きありがとうございます。

教育委員の皆様には、日頃より本町教育の充実、発展、さらには子ども達の健全育成のためにご尽力を賜りまして誠にありがとうございます。

前回2月の会議において「長万部町子どもいじめ防止条例」についてご協議頂きましたが、3月の町議会定例会で条例案が可決され、4月から施行しております。私は、この条例をスタート地点と考え、町、学校、保護者それぞれの責任のもと、子ども達が幼児期から安心できる温かい環境の中で、心豊かに育つよう、引き続きいじめのない町づくりに努めていきたいと、改めて思ったところであります。

また、「学校運営協議会制度」については、前回、課題や進め方等に対してたくさんの意見があり、時間をかけて協議しました。最終的には、教育委員会が学校・保護者・地域の方としっかりと連携をして、導入の促進について研究していくということで協議を終えております。本日はその進捗状況を報告することになっておりますので、よろしくをお願いします。

本日は、そのほかに「学校給食の運営状況について」の報告を議題としておりまして、ここでの審議終了後、給食センターで試食する予定であります。

最後になりますが、この会議では、本町の子ども達の教育にとって何が必要か、そして何を進めていけば良いのかというスタンスで、皆さま方からご意見を頂戴できればと思っておりますので、本日は、よろしくをお願いいたします。

●事務局（総務課長）

ありがとうございました。

ここからは着席のまま進めさせていただきます。

続きまして、教育長からご挨拶をお願いいたします。

●鈴木教育長

改めまして、皆さんおはようございます。

町長におかれましては、第2回総合教育会議を開催して頂きありがとうございます。

この時期、教育委員会としては予算の要求に向けて様々な施策を練る時期でありますし、加えて前回の総合教育会議の課題であった学校運営協議会制度のありようについて、今まで進めていた取り組みについて町長はじめ教育委員会の皆様にご協議頂く、そしてご報告をさせて頂く機会を得たことはとても良いチャンスだと考えているところです。また、これをベースに次の年度への施策を色々練る、そんな機会にしていきたいと考えているところです。

また、お示しのあった学校給食の運営状況についてもここで説明させて頂き、委員の皆様、そして町長からも様々なご指摘を頂き、次の教育行政に繋げていきたいと考えておりますのでどうぞよろしくをお願いします。

総合教育会議という場で町長とこうした意見交換をできることを、私どもはとても感謝しておりますので今後ともよろしくをお願いいたします

●事務局（総務課長）

ありがとうございました。

それでは議題に入る前に「長万部町総合教育会議運営要綱」により、本会議の議長は町長が務めることになっておりますので、ここからの進行をお願いいたします。

●木幡町長

それでは、次第に沿って進行させていただきます。次第の3、議題に入ります。

報告事項として、(1)学校運営協議会制度の進捗状況について、説明員から説明をお願いいたします。

報告事項

(1) 学校運営協議会制度（コミュニティ・スクール）の進捗状況について

●説明員（主幹兼学校教育係長）

それでは、報告事項の(1)学校運営協議会制度の進捗状況について、ご説明させていただきます。

座って説明させて頂くことをお許し頂きたいと思っております。

お配りしております資料の（案）コミュニティ・スクール導入等促進事業という資料をご覧ください。

まず1頁目をめくって頂きますと事業の概要等が書いてございます。今日は細かいところまでいきますとちょっと時間がかかるので、かいつまんだ形で進めさせていただきますのでご了承頂きたいと思っております。

まず、このコミュニティ・スクール導入事業につきましても、平成28年度から平成29年度の2カ年の1年次目となっております。続いて2頁目の取組の概要（時系列で掲載）という部分をご覧ください。合わせまして最後の頁にA3の資料がございますがそちらを開いた状態で見て頂ければより分かりやすいと思いますので、そのようにして頂ければと思います。なお、最後のA3の資料につきましても、総務委員会で説明をさせて頂いたときの資料でございますので、それと見比べながらお話を聞いて頂ければと思います。

先ほど町長さんからもお話がありました。2月19日の第1回の総合教育会議にて本件について色々な協議やご指導、ご助言を頂きました。主に町民とか、教員の皆さんとか、コンセンサスをとってしっかり進めていくようにというご助言を頂きましたので、そのことをしっかり踏まえた形で進めていっている状況でございます。

実際の学校運営協議会制度の委員の皆様の上げにつきましても、補正予算等で報酬、旅費等の補正を頂いた後、7月1日から実働で動いてございます。7月1日には学校運営協議会の初の会議でございます導入促進委員会議の第1回目を開催し、委嘱状の交付、委員長・副委員長の選任という形で進めさせて頂きました。

なお、町民の皆様方への周知という部分では「みんなのがっこう」という学校運営協議会制度に関わった内容についてそれぞれ報告したいということで、町の広報の折り込みを2カ月に1回ずつ会議の進捗状況ですとか、視察の状況を踏まえた話題をそちらのほうに記載して全戸配布という形で進めております。なお、町のホームページにも合わせて掲載して周知しております。

以下、学校での地域人材の活用に関しても含めまして、実際に足を運んで委員の皆さんにも学校の状況や地域の皆さんと学校がどのように協働して学習活動に取り組んでいるかということをご覧頂きながら、町の特性とか長万部町の独自の、どういう形の導入が望ましいのかという形を会議等でそれぞれ研究をして頂いているところでございます。

概ね総務委員会のほうで提案させて頂いた月毎のスケジュールについては、順調に進んでございます。

ただし、先進地視察、我々のほうでは近隣町で進んでいる町が寿都町、ニセコ町でございます。ニセコ町につきましては私達と同様の導入促進事業を入れた2年次目となっておりますので、1年先輩の町になります。寿都町につきましては導入促進事業を経て、現在指定から3年目を向かえてい

る、実際に学校運営協議会が動き出している町でございます。そちらの2つの町に色々なご助言を頂きながら進めさせて頂いてる状況となっております。

先般、文部科学省のほうから内示の通知は頂いていたのですが、10月28日にこの学校運営協議会制度の決定通知が正式に届きまして、先般町長様にも決裁を頂いたところでございます。

なお、この7月から4カ月が動き出してから経過しておりますが、11月1日には「みんなのがっこう」CS通信の第3号を広報に折り込みをして頂いて配布しているところでございます。

これからの動きなんですけども、11月8日には先進地視察ということでニセコ町さんのほうに運営委員の皆さんとお邪魔させて頂いて、ニセコ町のコミュニティ・スクールの研修会に参加をさせて頂く予定となっております。

また、町内の保護者・学校教員等を含めまして、それらの方々にも制度のご理解を得るということを目途に長万部町「地域とともにある学校づくり研修会」を多目的活動センター「あつまんべ」で開催して頂く計画でございます。

今後、12月9日には学校運営協議会制度、今は設置規則の内容についての協議を進めております。何人ぐらいの編成が良いのか、報酬は必要かなど色々な部分で各委員さんからのご意見を頂いているところでございます。

ちょっと戻りますが、「地域とともにある学校づくり研修会」に関しましては、長万部町の管理職の、学校の管理職の皆さんは道の研修ですとか、渡島教育局の研修等でコミュニティ・スクールの関係についてはよくご存じかと思うんですが、一般の教員の皆さんについては、なかなかそういう機会がないということもありますので、北海道教育委員会の義務教育局から講師をお招きしての制度説明、それと我々の1年先輩の導入促進事業を実施していますニセコ町から講師をお招きして取組の状況をお話しして頂く予定としてございます。

また、これから学校運営協議会を進めていく上では社会教育委員さんのご協力もいるという意味も込めまして、社会教育委員さん、それと町議会議員の皆様にもご案内を差し上げているところでございます。

以下、調査研究の内容につきましては、それぞれの会議の開催の議案ですとか、話し合われた内容での成果等について記載してございます。6頁までがその内容となっておりますので後ほどご覧頂ければと思います。

以下付いています「みんなのがっこう」通信につきましては、1号は7月1日の広報に、2号は

9月1日の広報、そして一番新しい11月1日号は今月の広報に折り込みをさせて頂いたところでございます。

コミュニティ・スクールの進捗状況については以上です。ありがとうございました。

●木幡町長

ただ今、事務局のほうから「学校運営協議会制度の進捗状況について」の説明がございました。

ちょっと内容が密なんだけど説明がちょっと薄い。端折りすぎ。もうちょっと内容についてきちっと説明しないと理解ができないことがたくさんあるんで、そこら辺をもうちょっと質疑があればしっかり答えて頂きたいと思います。

委員さんの皆さん、教育委員の皆さんを含めてですね、ご質問を頂いて内容を精査していきたいと思います。何かご質問、ご意見等ありませんか。

私のほうからまず、推進委員の方々の資料を見ると、「みんなのがっこう」の第1号の下に導入推進委員会として8名の名前が載っております。先ほどの説明の中でも、今後新しく学校運営協議会の委員を選任ということになるのかな。

●説明員（主幹兼学校教育係長）

今現在進めているのは、正式な学校運営協議会をつくるための基礎づくり、土台づくりと言いますか、それについての協議を深めて頂く、いわゆる導入のための考える会のような準備委員会のような形で考えています。よって29年10月1日を導入の目標としているんですが、そこまでの期間の中で、委員はどのくらいの人数が必要なのか、現行の制度では各校に1つずつ学校運営協議会という形で示されているんですが、現在文科省のほうでも複数校で1つの学校運営協議会でもいいという修正案を出されているということもありまして、当町につきましては小学校2校に中学校1校なんですが、いずれ統合中学校に進むという接続の部分も考えて、現在2小1中で1つの学校運営協議会を進めるような形で考えております。

●木幡町長

導入推進委員会というのは10月7日までに3回開催されて、今後も2回開催を予定されているようですが、この中での協議の内容、これまで3回の協議の内容について説明してください。

●説明員（主幹兼学校教育係長）

それでは資料の3頁目をご覧ください。

第1回目の学校運営協議会制度導入推進委員会議の日時・場所・内容について記載されております。7月1日に開催されました。内容は委嘱状の交付、委員長副委員長の選任、委員長につきましては東京理科大学の榎本先生、副委員長につきましては川添さんをお願いをしたところでございま

す。3つ目でございます「学校運営協議会制度」というものについての説明を行いました。学校運営協議会制度の内容、そして導入推進委員会としての運営方針・研究課題・テーマについての説明、今後の会議及び視察等のスケジュールについてということで説明をし、町民への周知・広報の方法についてという部分で協議をさせて頂きました。

成果ということで書いておりますが、導入の背景、学校運営協議会が担う役割について説明をし、委嘱した委員の皆様、この会の運営方針ですとか研課題・テーマ・スケジュール等についての提案を行って基本的な考え方や知識について学んで頂く機会とさせて頂きました。

会議の分で第2回目となります。4頁の下段になります。第2回の会議です。8月19日に開催し、長万部町における学校課題等の現状分析ということで町内各小学校・中学校の現状、児童数・学級数・教員数等について話題を提供し、それぞれの委員の皆さんから学校が抱える課題、校長先生・教頭先生も入っておりますので、そちらのほうからも色々ご意見を頂きながら、地域の方々として入っている委員の皆さん方からも外から見た学校の課題についての話題を頂きました。

色々話題が出たんですが、下の成果のところにあります「学力」「体力」「いじめ」「不登校」などの話題が多かったです。「総合的な学習」等の時間で地域の人材を活用するための「学習メニュー」や「地域人材の発掘」といった学校や地域だけの課題ではなく、教育委員会の社会教育部門、学校と地域を繋ぐコーディネータ役の必要性等についても提案がされたところでございます。

少し飛びますが、第3回の会議につきましては6頁の上段に記載されております。10月7日に開催をしております。会議の内容については「学校運営協議会」の構成及び人数等の「設置規則」に係る内容の検討ということで、第1回目の検討ということでやらせて頂きました。制度の「設置規則」に係る内容ですので、色々なご意見を頂き2回くらい会議の開催を持ちながら進めていきたいと思っております。

この会議では、「設置規則」の作成に係る内容等の検討・協議を実施しました。委員の選出基準、人数について具体的な話し合いを行い、学校運営協議会制度の導入にあたり「学校（教職員）の事務負担増を避ける」や「円滑な会議運営と会議スケジュール及び会議回数」などについても様々なご意見を頂きました。他町の設置規則も参照・参考にしながら第4回の会議でも継続協議を進めていこうということで終わってございます。

●木幡町長

次に先進地視察の関係についてもうちょっと、この辺りについても、視察の経緯についてもちょっと話してください。

●説明員（主幹兼学校教育係長）

町外の視察の関係ですが、まず5頁の上段になります。先進地視察ということで、事務局の事前視察ということで寿都町とニセコ町のほうに9月1日にお邪魔させて頂きました。寿都町については、導入促進事業を既に活用しCS指定をしております。ニセコ町につきましては、導入促進事業の2年目ということでお邪魔させて頂きました。

視察の目的は、主に事務局の我々が内容について更に身近な話題で学びたいということで行ってきました。

1つ目には「CS導入促進事業」の導入推進委員会の会議の進め方、私達も手探り状態のところもあるので先輩達に色々聞きながら、どういう内容で進めていったら良いのかということも含めてお聞かせ頂きました。

それと学校運営協議会の設置及びCS指定校についてということで、具体的に寿都町とニセコ町でどのような形で指定を行ったのかということについてお伺いをしてきております。

あとは文部科学省からそれぞれ書類が来ておりますCS導入促進事業の補助を受けた際の事務処理等の方法について色々資料を頂きながら勉強させて頂いたところです。

4番目にはその他ということになっておりますが、このコミュニティ・スクール導入促進事業以後の補助等の活用や類似制度の対応について確認させて頂きました。合わせて当町の導入推進委員が寿都町とニセコ町の学校運営協議会又は推進委員会の取り組みを視察する機会をぜひ作って頂きたい旨のお話しをしております。

成果としましては、視察先の両町とも、学校運営協議会制度の導入にあたっては「学校へ負担をかけないよう配慮する」というコンセプトが、非常に私達も印象を受けました。「学校と地域を繋ぐコーディネータ役」の必要性や重要性を両町ともに強調してお話ししていたというのが非常に印象に残っております。よって、本町においてもCS、いわゆる学校運営協議会を進めるにあたる「コーディネータ」の役割を果たす人材の配置が必要であるということや学ぶ機会になったほか、文科省との事務のやりとりについても先進地から多くのことを聞かせて頂く機会となりました。

次に6頁です。先進地研修会への参加ということで、私が10月19日に寿都町のほうに寄らせて頂きました。本当でいけば運営委員の皆さんにもご案内をして参加して頂きたかったんですが、寿都

町さんからのご案内が3日位前だったものですから、私だけで参加させて頂いて勉強させて頂きました。

寿都町で行われまして、寿都町におきましてはうちと同じ規模で学校が3つございます。寿都町はそれぞれの学校に学校運営協議会を設置し、コミュニティ・スクールの指定を行っている町でございます。この3つの指定をした後にですね、やはり全ての学校の連携も図らなければならないという意図から、この3つの協議会を束ねる連絡会というものを設置して進めている町でもございます。その3つあります運営協議会の連絡会が主催する研修会に参加させて頂きました。

連絡会は、各学校運営協議会が、事務局をそれぞれの3つの学校運営協議会が持ち回りで受け持って、企画・会場準備までをその町民からなる学校運営協議会の事務局の方々が行って実施しているものでございます。

長万部町と類似した学校数・規模数でありますけども、現行制度の1校1運営協議会では連携を図るために更に上の組織と言いますか、連絡会を設置してそれぞれが連携して進めるような形の研修会や交流会を進めているということがよく分かる研修会となりました。

次にその下になります。これは委員研修として行かせて頂きました、札幌で開催された「地域とともにある学校づくり推進フォーラム」、これは文部科学省から導入促進事業を進めるに当たり必ず参加して頂きたい内容として記載されていたものでございます。10月21日金曜日に札幌の共済ホールで行われました。

文部科学省のほうから職員が派遣され、行政説明、これは制度説明です。それと今実践している各市町村の実践発表やパネルディスカッションが行われました。

成果につきましては、推進委員及び事務局で参加をさせて頂き、先進地の実践発表やパネルディスカッションでは、各市町村で工夫した取り組みが進められていることがよく理解できる研修会でありました。各推進委員も話題を長万部町の場合に置きかえて考えるなど、制度理解と今後の取組の大変参考になりました。この「地域とともにある学校づくり推進フォーラム」に参加した内容につきましては、今月号の「みんなのがっこう」通信にも記載させて頂いて、ご紹介させて頂いております。

視察の内容については以上です。

●木幡町長

説明を頂いたんですが、今の説明を聞いて全般的にですね、ご意見を頂きたいと思います。

●村上教育委員

はい。

●木幡町長

村上委員。

●村上教育委員

2点ほど。まず今後の見通しとして、今のところハードルって何なんだろうなど、事務局が今感じてらっしゃること、実現に当たって今あがっている問題点というのとは何か。

それと、多分そのうちの1つなんだと思うんですが、準備委員会の中でどうなっていくのかなと思うんだけど、基本的には1校につき1つの協議会ということ、文部科学省の方針も少し緩やかになって1つでもいいんじゃないかということなんですけど、メリット・デメリットがあると思うんですよね、1校に1つあればきめ細やかに学校それぞれの状況に応じてという形になる。でも、寿都町が今の報告でいけば、やっぱり各校の連携みたいなものでもう1つ組織を作らなきゃいけないので組織が大きくなったり、連携をまた別の形でやらなきゃいけないところが、その組織が1つであれば、それぞれ連携を取りながらというふうに、でもそれだとそれぞれにきめ細かくは見れないのではないかと、うちとしては、準備委員会としては1つでいいんじゃないかという方向なんでしょうけど、その時にこのメリット・デメリットに関してどういうふうに、例えばきめ細やかに見るとかという問題点を必置するというか、クリアできるという見通しって言うんでしょうか、どういう議論になっているのかというところがちょっと気になるんですが、この2点だけ。

●説明員（主幹兼学校教育係長）

はい。

●木幡町長

どうぞ。

●説明員（主幹兼学校教育係長）

まず1つ目の問題点、いわゆるハードルについての部分になります。

こちらにつきましては、2つ目の1校に1つという部分にも重なるのですが、現行制度では1校に1つというふうに進められているのが実際です。ですが、札幌での推進フォーラムの中で、文部科学省の専門の派遣された方々からも、複数校で1つの運営協議会の設置でも構わない方向に今修正をかけているというように資料にもそのような説明がございました。

1つずつのほうが良いのか、1つのほうが良いのかということですが、現在の学校運営協議会の推進委員会での話の内容では、長万部町の規模からいっても、先ほどちょっとお話ししましたが、

いずれ統合中学校に上がるという接続の部分を考えてときにも、各校にそれぞれ置くということでは、静狩小学校の場合は児童数も少ないので考えづらい部分もありますということも含めまして、現状では2小1中で1つの運営協議会の設置を話し合われているところでございます。表紙のほうにもそのようなイメージで書いていて、円が重なったものですが、長万部中学校、静狩小学校、長万部小学校の3つの学校が1つの学校運営協議会で進めていくという方向で今話し合われています。

もう1つ、問題点ということではないのですが、それぞれの、寿都町、ニセコ町さんで、今色々学ばせて頂いているところでありますけども、学校と地域を繋ぐコーディネータ役というのが非常に重要であるというふうに両町おっしゃっておりまして、私達正直なところ、そこまで考えていなかったところだったので、非常にその部分については大きく学ぶ機会を頂いたと思っております。

いわゆる学校と長万部のほうで地域をよく知る方、町内会にこんな特色を持っている方、こんな勉強を教えられる方、学校の学習に協力して頂けるような方を繋ぐパイプ役をして頂いたり、色々な学校に関わる事業に、学校とともに地域とともにそれをコーディネートして頂けるような役割を果たす人材が必要になってくるのではないかという部分が、そういう人材を色々考えていかないといけないのかなと思っております。

●木幡町長

村上委員どうぞ。

●村上教育委員

実はよく分からない部分があって、長万部町の広さとか規模に関する認識っていうのは色々あって、僕みたいな外から来た人間は広いというイメージなんです。なので1つにしたときのメリットと、バラバラのときのメリット、逆にデメリットというので比較検討をして頂いて、一緒のほうがいいんじゃないかと、今のご説明下さったことのイメージですよ、例えば静狩は静狩の特性があって、長万部は長万部の小学校の特性があるところを、今のコーディネータという話と繋げると、コーディネータを1人にするかどうかという議論が必要なんですけども、或いは今規則を作られて、心配するのはコーディネータの方が期待されたとおりの働きができないということが当然リスクとしてはあると、その時に誰がどういう形でその方について調整するのか、つまり3つあれば1人ずつ就くわけですから、そうするとそこは割にリスクが分散するという見方もありますよね、でも1つにしちゃうと1人の方に、そこに集中してしまうと、そうすると例えばコーディネータが

1人、町はいるけどそれぞれの学校にもう1人ずつの4人体制でやるほうが、リスクも分散されるし長万部町のそれぞれの地域の特性に関してうまくマネジメントできると、長万部町の現状とコーディネータの制度と違っていうところをいじれないのかなという感じが、今のご説明の印象なんですけど、僕の印象で申し訳ないですけどそういう気がするんですが、質問になっていなくて意見です。

●木幡町長

さっきの説明の中では、文部科学省がまだ修正をかけているという説明の文言があったんだけど、修正をかけるということ自体は、この制度自体が完成品でないよという形の修正だと、だから我々はそれをどう捉まえて、この制度化になっていくのに修正かける、そういったものをつかまえて制度化に持っていったり運営規則を作っていくんだらうけども、今先生もおっしゃるとおり静狩小学校は小学校なりの特性を持って教育をしている、長万部小学校はある程度生徒が多いところでの教育をしている、1つ1つ学校が違う、長万部の中学校もそうだし、それをどうやって連絡協議会のようなものに持っていくのかということも含めて、文部科学省がまだ完成をさせていないということ自体制度の甘さっていうのが出ているような気がするんだけど。

地域のコーディネータを育てる、優秀な知識を持った人を1人か2人って言うけども、優秀な知識を持った人だって偏見もある。やっぱりその人の考えていることが子どもの教育のために全て正しく伝わるかどうか、これが問題なんだと、やっぱり公平な目で教育っていうのはあるべきだというのが、やっぱり往々にしてこう考えながらコーディネータっていう人をどう配置するかということを考えてないと、ただコーディネータを配置するっていう言葉を使っても非常に難しいところがあるなと思っていたんですがどうですか。

●鈴木教育長

いいですか。

●木幡町長

どうぞ。

●鈴木教育長

村上委員さんの指摘のことにつきましては、実際に管内、近隣の様子を考えますと、これは全員協議会でも議員さんが心配されて、1校に1つの協議会という方向にきているのにあえて長万部町ではというご指摘があったことも踏まえてお話しするんですけども、都市部とやっぱり違う、例えば東京都とか、これが一番進んでいるのは山口県なんですけども、あるいは東京三鷹、この辺の都

心部の学校というのは規模が相当違うというのがまず第一、それから近隣の町でいうと鹿部町が導入推進を使わないで、即この10月からスタートしています。

鹿部町は、町立の幼稚園、小学校、中学校がある町なんですけども、そこでは私どもと同じように協議会は1つでいけるというか、そういう方向にきています。それから一方同じように中学校1校、小学校2校を持っているニセコ町も同じように1つの協議会で、課題をその都度持ち回りで持っていくとか、そういう工夫をされています。

その大きな理由としては、例えば鹿部のように同じ地域、うちとは違って小学校、中学校を同じ地域で持っている。つまり保護者の方、人材も同じような共有をしている中では1つのほうがうまく回っていくのではないかということ。それから、人材を確保するのがやっぱり難しい。この難しさから言えば静狩にも若干当てはまるのかなと思っています。

それぞれ保護者の方、PTAの方もいらっしゃる中で、また新たにこの協議会を設置していくというのは少しハードルが高いのかなという気がしています。

それから、町長がご指摘された未完成の運営協議会の制度についてなんですけども、良い方向にはきているのかなと思っています。先般教育長の研修会が札幌であったんですけども、その時にも文科から来ている担当の方が、日帰り、この協議会が実情にあった、北海道のように小規模校も踏まえれば1つの町でとか数校を束ねた中での運営協議会があっても良いのではないかとということで、今議会のほうでというお話しがあって戻らないうお話がありましたし、その都度その度文科からの説明では、束ねた形での運営協議会があってもということに進んでおります。

話が前後するんですけども、鹿部のほうもそういったことで、通っているという見込みを踏まえて、通っているということを考えれば、うちの実情を考えたときに導入推進委員には静狩地区の方にも入って頂き、静狩の情報も頂いていますし、逆に静狩から来ている方の情報を他の導入推進委員さんのほうにも伝わっていくような選任をさせて頂いているものから、その辺はうまく展開できるのかなと思っています。

それから、CSのコーディネータの役割ということでお話しさせて頂きますと、先ほど米代が話したとおり、私どものほうではあまり先を深くは考えていなかったというのが実情です。その理由は、この町は社会教育がとても充実している。東京理科大学をはじめ事業主さん達が教育活動に

とって携わってくださる町なんです。ですからこの学校運営協議会が、仮にスタートできるとしたら、多分管内の中では一番充実した運営ができるのではないかと私は感じてるんですけども、加えて、学校の先生方が、異動で言うと基準年数4年とか5年の中で入れ替わりはするんですけども、やっぱり学校と地域をうまく繋いでくれている町なんだなということを感じていました。したがって、仮にCSのコーディネイトをあえてしなくても、なんとか頑張っ先生方が進んでいく。

でも、他の町の様子を聞くと、よく例えで言うんですけども学校の先生方は教育の良い風である、そして地元に残っている方が土であるという気がするんですけども、風がやっぱり家主になったり、違う方向にくることを考えれば、CSのコーディネータ、具体的に言うと寿都は総合学習、ふるさと教育ということを中心に考えていて、もう1つ二本柱があって、英語を小中一貫でということをやっているんですけども、人が入れ替わっても、例えば学校の先生でこういう人材がいないか、こういうことを学校で今期待して教育活動を展開していきたいんだけどもと言ったときに、現状ではペーパーになって、活字になっているものはあるんですけども、こういう人がいるよとか、こういう人材がいてこんなことを過去にはやったことがあるよということ言う方々が、やっぱり教員は入れ替わるんですね、そういうことを寿都のほうでは大事にしている、この方に聞くと良い教育活動が展開できるよという、そういう方を確保するということが重視されています。ニセコ町も同様です。

米代さんが先ほど言ったとおり、学校には負担をかけられないということが2つの町のスタンスでもあって、それはとっても魅力的なことだなと私も感じています。もちろん偏見もなく、あくまでも学校の要請に応えるような、学校としてはこんな教育活動が欲しいんだと、そうするとそこで調整できるような役割を担う方が今後大事になってくるのかなと思ったのが、今の自分達が考えている課題であります。

もう1つ、ちょっと以外だったのが、この学校運営協議会がスタートしたときに校長の経営方針を承認するというものが大きな柱であり、これがなかなか学校に浸透しなかった理由の1つでもあったんですけども、これについては先進地とか、或いは進んでいる状況を見ますとあまり大きなハードルではなかったと感じています。例えば、学校の校長先生がこういう方針でいくということについて、3月なら遅いから2月にとか、10月に修正をかけたいとは言っているものの、この委員になって

いる方々は、やっぱり学校の応援団であり、学校の教育活動を推進してくださることを見守ってくださる方々なもんですから、具体的にこういうタイプの教員がほしいとか、こういう事情の中でもう少し校長先生には居て欲しいということについても、概ね学校も委員さん達も理解できている、そういうことがあったものですから、この学校経営の経営方針を承認云々についてはどこの町でもあまり問題なく過ごしているなという感じがします。

重複しますが、今の課題ともしっかりアンテナを高くしていかなければ駄目なのは、1校につき1つの協議会があり数校を束ねるのはどうなのかというのが1つと、CSのコーディネータの役割、人材のありようについてはしっかり勉強していかなければならないと思います。

●村上教育委員

いいですか。

●木幡町長

どうぞ。

●村上教育委員

僕は別に分けなければいけないとか束ねたほうが良いとかっていうわけではなく、そこは多分メリット・デメリットがあるので、もし方針が決まっているのであればデメリットをなくすような形で、制度設計の問題だと思うんです。

多分、今のお話を引き継ぐ形になるんですけど、文科省のほうでコミュニティ・スクールのガイドライン、アウトラインを作るときに校長の経営方針を承認するというを入れてきたのは、例えば、学校で校長先生が場合によっては問題がある可能性を、設置するときにはコミュニティ・スクールが作動するようになっていう制度設計なんじゃないかと僕は想像するわけですけども、つまり回っているときは良いんですけど、回らないときがあるかもしれないというときの安全弁、それが同じようにコミュニティ・スクールの制度のほうにも、今はないし、多分将来もないかもしれないけど、色んな可能性とかの怪訝が多分あるし、我々としては説明責任がありますので、そうするとこれを説明できるような形でこの準備委員会が出た意見とか、事務局の方が想像されるハードルとかに対して、それに対してはこういうふうになりますという、言い方は悪いですけど理論武装みたいなやつがあるのかなという感じが、新しい制度ですから。っていう印象でした。

●木幡町長

他にありませんか。

それでは一言ずつお願いします。

●大山教育委員

いいですか。

●木幡町長

どうぞ。

●大山教育委員

今は準備段階だと思うんですけども、先進地視察を行った中でニセコ町は今、準備段階で2年目、寿都町はもう一步先に進んでいるということで、この中に実践発表というのがあったんですけども、どのような、教育長さんからふさと教育のことと学校というお話しがあったんですけども、もうちょっと詳しくどのようなことをやっているかということ。それから、この制度が進んでいって実際に長万部に導入されたときに、どのような形でやっていったらいいのかなっていうものが、町民の人から聞かれたときに、漠然と地域の人と学校の繋がりというんじゃないくて、ちょっと具体的に知っていたほうが良いと思ったんですけど、よろしくをお願いします。

●説明員（主幹兼学校教育係長）

はい。

●木幡町長

どうぞ。

●説明員（主幹兼学校教育係長）

今の大山委員さんからの質問ですが、まず寿都町の研修会参加での形なんですけど、3つの運営協議会の方々の代表が、それぞれの取組状況についてお話をしていました。それは、先ほどお話がありましたけど、学校の応援団としての役割をこういうふう工夫して、こういう形でこうやっていると、その中にはやはり、なかなか賛同が得られないというか、協力が難しかったという反省の部分も含めてですね、それぞれ苦勞されていたり、良かった部分もちろんあると、良かったほうの部分が多いというのが印象なんですけど、それが学校運営協議会に入っている漁師の方が、寿都町は漁業を一生懸命やっている町なんで、僕は漁業のことしか教えられないんだけど、漁業を通じて子ども達に体験活動をこういうふうにさせたいんだっていうのを学校運営協議会の中で話したら、それをやってみようかとみんなが言ってくれて、寿都の忍路小学校という小さな学校の運営委員の方々からの発表だったんですけども、それを最初はご自分1人で、あそこは牡蠣とか貝とかを剥がしてみたりという活動をしていたんですけど、それを当初は自分1人で何人かの子どもに教えていたんですけど、今度はちょっと広げて、うちの従業員にもこうやってやるという趣旨を説明して、従業員にもやり方を教えてもらったりということを広げたら、従業員の方々もやり甲斐というか、教え甲斐を感じて、双方に良かったと、うちの従

業員も「また今度そういうのやるんでしょ」とかっていうのがあったりだとかという意味では、子ども達にも良かったし、地域でそういうふう活動していく中で、協力をしてもらった自分の所の従業員も教えることの楽しさや喜びを感じたのが非常に嬉しかったという話を聞いたのが非常に印象にあります。

それぞれ話を頂いた方々は、一般の方、漁師の方、学校の先生のお三方、3つの協議会なのでそれぞれのお話があったんですけど、そのお話が非常に印象に残りました。

学校の先生からのお話もあったんですけど、やはり教員間の認知と言いますか、理解の温度差というのもあるって、そういうのが結構大変だったというご苦勞されたお話を伺いました。ただ、ちょっとずつ説明を重ねて学校運営協議会からの、一般の町民で編成する学校運営協議会の方々からの説明や協力を得ながら進んでいって、3年経っているんですけども、ようやく機能するようになってきたというような話もされていたのが印象に残っています。

●大山教育委員

ありがとうございました。

寿都町として、これとはちょっと違うんですけども、町全体を活性化させるようなテレビ報道をされていたのを見たので、関係があるのかなと思いつつ質問しました。ありがとうございました。

●説明員（主幹兼学校教育係長）

補足と言いますか。ちょっといいですか。

●木幡町長

どうぞ。

●説明員（主幹兼学校教育係長）

長万部町においても、いま寿都のお話をさせて頂きましたが、静狩小学校では漁業体験を既に学校で取り組んでいると聞いています。地元の漁師の方々に船を出して頂いて、釣りの体験ですとか、ホタテの養殖の姿を見せるという学習機会を、今現在も進められていると聞いております。よって、長万部町にはそういう素地があると言いますか、地域ではそれぞれ色々な特色のある学習活動を進めておられますし、長万部小学校の場合も夏休み中の補完授業である「きらめきデー」というのに地域の方々が様々な形で参加して頂いて、来て頂いている方には、学校に入って教えることの楽しさというのを言っておられる方がいるというお話も聞きましたので、ただ単に入って教えるだけでなく、教えるほうの町民の、地域の方々の側に立ったときにもそういう生きがいと言いますか、そういう効果も与えられる、そういったものなのかなというふうにも思っております。

●木幡町長

静狩だったら写万岳の登山のとき、全校生徒と先生方も一緒に来て参加しているのも、それもいい活動だなんて思っていたんだけど。

●鈴木教育長

いいですか。

●木幡町長

どうぞ。

●鈴木教育長

地域と学校ということを考えると、今まではどちらかという学校の方で、例えば総合学習でこういうのを展開したいんだけども誰か人がいないだろうかというような学校が恩恵を被るというか、そういう視点で物事を進めていたんですけども、今回の学校運営協議会の良いところは、地域にとっても大きなプラスがあるってということなんです。先ほどの寿都の漁業体験もそうなんですけど。

この間静狩小学校の地域文化祭のほうに参加させて頂きました。見られたことがある方もいらっしゃると思うんですけども、本当に地域の文化祭の中に学校の学芸会が入っている。たくさん演目は子ども達なんですけども、そこに地域の「どんぐり座」という発表があったり、あるいは「歌おう会」の発表があったり、そしてみんなで楽しんでいくっていうか、あの様子が子ども達にとってもそうですけども、地域の方にとってもとても良い活動で、その場面の凝縮がこの学校運営協議会制度のプラスの面なのかなと思っています。

これを長万部のほうに視線を移すと、まだ全然具体になっていないんですけど、道立高校の「ふれあいオリンピック」の中の、高校だけでやっている運動会とは違って短い種目、限られる種目ではあるんですけども、活動の場、活躍の場を町民の方々が見てくれる、そして一緒に加わる、それから町民の方にとっても、あの子ども達がこんなに成長したのかなっていう、そういう場面なんかも、高校はここに入っていないんですけども、1つの地域の関係というか、そういうものなのかなって思っていますので、そういった視点で今度学校運営協議会がスタートするときに、1つ2つの活動と重なり合うんでないかと期待しております。

●小野教育委員

いいですか。

●木幡町長

どうぞ。

●小野教育委員

質問とか意見ではないんですけど、米代さんから報告があったんですけど、寿都の漁師さんのお話を先ほど伺って、長万部も一昔前と言いましょ

うか、国縫とか中の沢に小学校があった時に、国縫ではPTA会長さんがだいたい漁師の方がやられることが多くて、中の沢もそうですが、国縫の黒澤さん、中の沢の山田さんあたりが中心になって漁業体験をしていた時代がありました。

統合になってからは、そういうことができないもんですから、年に1回お祭りで会うときによくおっしゃっているのが、ああいうのをもう1回やってみたいなど、よくおっしゃってたんで、導入されるとそういう方々も、漁師さんにしろ、静狩の土本さんにしろ、そういう農業の方々も入ってこれて、先ほどもおっしゃっているように学校に負担をかけない配慮ができるんじゃないかと思っています。

自分のことを言うのもちょっと恐縮なんですけども、9月26日に小学校と中学校で松前神楽の授業と言いましょか、体験学習みたく行ったんですが、その時も学校のほうに負担をかけないよう時間だけ下さいと言って入っていったんです。それが終わって、けっこう反響が良くて、中学校で言いますと音楽の授業で古典芸能というのがありまして雅楽、主体となるのは雅楽なんですけども、笙、箏、篳篥（ひちりき）、龍笛、そういうのをCDとかDVDで授業の中で見せているんですけど、そういうところに私にしろ、近隣の神主さんに来てもらって生の演奏もできるし、そういう体験もできるので、この制度が進んでいくとそういったところも学校のほうに負担をかけなくて、こちらのほうからいいですよって日程を調整して入っているんじゃないかという思いであります。

もう1つ、今度の17日、11月17日だったと思うんですけど、企業訪問、中学校のほうで、かなやさんとか富野の工場とかなんでしょうけど、見学に行く、神社も8年位前からそれに入っていて、大体3人、4人に振り分けられるんですね、中1が対象なんですけど、うちは必ずというか大体吹奏楽部の子が中心になって4人、5人が来るんです。その子たち限定で雅楽の演奏をして聞かせたり、神社の成り立ちとかそういうことを含めて説明して1時間授業を、訪問してきて頂いて行っているんですけども、ほかの企業さんも、かなやさんとかにめしを作る体験をさせていらして、非常に人気があり、食べるとことまでいくので人気があるらしくて、そういったことをやっているのも、これは学校のほうから依頼があっつつ何日がいいですかと調整されて、これは担任の先生が中心になってやられるんですけど、そういった調整もコミュニティ・スクールのほうでできればもっとスムーズに進むんじゃないかなという思いであります。

既に今言ったことの内容が学校の応援団であるのと同時に、長万部という郷土愛と言いましょか、そういうのを子ども達に植え付けるというか、教えていきたいという思いで企業の方とか漁師の人とか農家の人達もそうやって入っているので、推進協議会などで推進して推し進めて行かれると非常に、ゆくゆく良い人材が育つんじゃないかと思っている。意見と言いましょか、とりとめのないことで申し訳ないですが以上です。

●北山教育委員長

はい。

●木幡町長

どうぞ。

●北山教育委員長

今小野さんがおっしゃったんですけども、7月に札幌で研修会があったときに、文科省の方が「これを進めるということは郷土愛だ」とおっしゃったのがすごい印象的だったんです。

今はまだ推進委員会を進めたばかりで、まだまだ不備な点は多いと思うんです。でも、人口が減ってきて、子ども達の数も減ってきて寂しくなっているところへ、お年寄りも何かをしたいけどという人達のためにもこれを進めていくのは、私はいんじゃないかと思っております。

まだ問題点はあると思います。ですけども、せっかく文科省からの援助もあるということですし、できればどんどん前に進めて頂きたいなと思っています。

●木幡町長

ありがとうございます。

今日は進捗状況についてということで報告をして頂いているんですが、だいぶ前に進みすぎて、今後こうなればいいという発展的な意見になってきたけども、進捗状況については、より慎重にきちっと整理をしながらやっていかないと、途中でこのシステムや文科省の申請だとか様々なものがこれから導入されてくるとすれば、そこはより慎重になって、これは教育委員会も含めてより情報の収集と進捗状況を一刻も早く教育委員さんにもお知らせしながら、まず、こうした理解をちゃんと頂くと、その上で推進協議会ができあがって実践活動に移すという段階になっていく、それに伴って予算を伴うということも含めて考えていかないといけないと思いますので、今日は進捗状況の報告ということで、ここまでこの議題を終わりたいと思いますがいかがでしょうか。

(「はい」の声あり)

●木幡町長

それでは、(1)学校運営協議会制度の進捗状況については以上で報告を終わらせて頂いて、次に(2)

学校給食の運営状況について、説明員から説明をお願いいたします。

報告事項

(2) 学校給食の運営状況について

●説明員 (学校給食係長)

はい。

●木幡町長

どうぞ。

●説明員 (学校給食係長)

議題の報告事項、(2)学校給食の運営状況についてということで、座らせて説明させていただきます。

学校給食センターの設備修理関係ですが、使用後20年が経過いたしまして老朽化も進行してきておりまして、突発的な故障の場合修理費の予算も限られておりますので、今月11月14日開会の臨時議会において補正予算を提出いたします。

補正予算の修理項目についてですが、1つ目としまして自動ドアの部品交換修理ですが、厨房出入口の片引自動扉の開閉装置が故障したため、今は手動で開けているような状況でして、こちらの交換を提案いたします。

2つ目といたしまして廃水処理槽の攪拌ポンプの取替修理ですが、施設の外にある廃水処理槽の攪拌ポンプが2台ございますけども、1台が老朽化で使用不可となりましたので、こちらの修理をいたします。

3つ目は補給水用の減圧弁交換修理ですが、受水槽の補給水タンクに付いております減圧弁が経年劣化いたしておりますので、こちらも一定の圧力を保てませんので、こちらの交換をいたします。

4つ目、コンテナ及び蒸気回転釜の修理ですが、コンテナの回転ハンドルですね、それと回転釜の蒸気バルブ、こちらも経年で老朽化してきておりまして、児童がコンテナを開ける際、開けづらい状況になっておりますので、こちらも交換したいと思っております。

以上4つの項目でございますけども、総額で87万6千円となっております。

この後11時半から給食センターでの試食がございますので、施設等も含めまして、皆さんの忌憚のない意見をよろしくお願ひしたいと思ひます。給食センターからの報告は以上でございます。

●木幡町長

この関係は報告だけにしておかないと議会にかかっていくものだから、議論の対象にはならないと思っております。

まず1つだけ給食に関する話なんですけど、私のところまであがってくるということは皆さんよく

ご存じかと思ってるんですけども、最近給食の残量が多いと、その原因が味付けだという話が私の耳にまで入ってきてます。それらも含めて、今日試食をしてみるということなので、やっぱりおいしい給食を提供してきたという長万部の給食センターの今までの誇りもあったんだけど、それがどこに原因があるのかという、もちろん教育委員会は把握していると思うんだけど、これらも含めて町民の意見として私の耳に入るということはよっぽどだなと思ってるんですけども、大山委員さんはそちらのベテランさんで、非常においしい給食を子ども達に提供してきたという自信と自慢を持っておられるかと思うんだけど、我々もまたそのおいしい給食を評価して長い間きて、ここへきてそんな話が出てくるのかなという思いでちらっと耳にはさめて、そして訴えを聞いているんですが、教育委員会へはそのような話はきてないですか。

●説明員（学校教育課長）

残量がどうのという話は把握し切れていないんですけども、味が変わって、はっきり言ったらおいしくない、そういった言葉もありました。ただそれは、味付けが変わった、ちょっと酸っぱいかな、新しいメニューという部分で食わず嫌いの部分もあったかと思うんですよ。

●木幡町長

何回か試食してみた。

●説明員（学校教育課長）

それはまだしていません。

●木幡町長

やっぱりそれは、ちょっと行ってみて食べてみるとか、試食するとかしてみないと。

●北山教育委員長

この間、祖父母参観で食べたらおいしかったですよ。ただご飯がちょっと堅かったとかはありましたけど、でも味付けは塩分とか量とかも全部出すんですか。

●大山教育委員

そうです。分量というか水の量まで全部出すんですけども、食べ物の味って皆さんご存じだと思いますけども、例えば分量を出していても、その時の野菜がありますよね、新鮮な物とそうじゃない物と、例えばほうれん草のおひたしだと採れたての物は味がいいけど何日か経った物は味が落ちると、数字上では同じであってもできあがりが違うってことが多々あるんで、それで給食のおいしさ、実際にはっきりとこの数字でやったからおいしくてこれだからおいしくないっていうのを食べてははっきり分かるっていうのはなかなか難しいんです。

それと、前にもお話ししたんですけども、給食ってやっぱり作り手と食べる側と保護者の信頼関係っていうんですか、そこがこんな形でこういうふうに作っているんだよ、これはこういう所から持ってきた物なんだよっていうことを子ども達に教えながら、ちょっと味が薄味だけど、今日は塩分、血圧っていうと小学生にはちょっと難しいけども、将来病氣にならないためにこういうふうにしてるんだよっていう言葉を添えるとか、色んな条件が重なって食べ物のおいしさっていうのが全体的になると、そういうものなんです。

また、子ども達のは残量っていう形で見れるんですけど、先生方の意見とかも良く聞いて、作り手である調理員さんのほうにも今日はこうだったよ、子ども達が喜んでたよとか、この味はこうだったよとか、コミュニケーションですね、そういうものをやりながら作り上げていかないと、おいしいって言われていた物が、どっかのお店でもよくありますよね、行列のできるお店が1つ何かあるとガタツとなるとか、そういうふうになつた段階かなと思いますので、評判を盛り返していくっていうにはもちろん作る、食べる物もそうだけど、それ以外のものを、それ以外の努力っていうんですか、PRっていうか、そういうものも大事かなというふうに思いました。

今日は試食させてもらいますので、その時点で味の面は皆さんでお話し頂いて、それに付随するものもこれからちょっと考えていったほうが良いよっていうようなことを伝えたいと思っています。

●木幡町長

大事なことですね。例えば先ほど言った味を薄くしているのは、高血圧の人が病院食で食べるのがこういう味なんだよ、だから高血圧にならないようにねっていう指導も必要だし、それをずっと続けてきて、その一声が生きてきて給食センター、長万部給食センターの味が良いいっていう評判が評判を呼んで、長万部は本当に問題なかったんですけども、今まで我々が給食には関わりを持ってないけど、どっから出るっていったら、やっぱり食べている子どもの声が親に伝わって、親がやっぱり「おかしいんじゃないか」と、もっと強烈な言葉だと「こんなものじゃ給食費払われないよ」って言うてくる、そこまでなってるのかと思って、それであれば、その原因になるものが早くから起きていたんでないかと、いや早くから起きていたはずなんです。それでなければ昨日今日の話が伝わってくるはずがない。そう思って、ここ何日間の間に2、3件直接電話をもらっているわけだから。それは教育委員会に電話すれと言って、教育委員会に電話しなさいって言って、現場を担当する職

員と現場を見守る職員と管理する人が教育委員会にいるわけだから、そこはちゃんと話をしなさいと言ったら、「じゃあもういいわ」って電話を切られましたけど、そこまでなっているということは、本当に今大山委員が言うように、この信頼を回復する努力、それは調理する人方の最大の努力なんだろうけども、これをどうやって回復させるんだっていうことが非常に重いテーマになってきているなと思って、今日はこの議題には関係ないけど喫緊の課題として捉えていかないとまずいと、それで今給食をとる高校生を含めて、人数も減ってきている中でもっとやっぱり真剣に我々も考えなきゃいけないなど、どうやってその信頼回復に努めるかっていうのは教育委員会としての大きな課題だと思います。

それでそこをしっかりと捉えて、情報っていうのはどのような形で流れているのか、そういうことも踏まえて今日は興味を持って、今北山委員長さんが「おいしかったよ」って言うてくれたのが少しは食べようかなっていう気になってるんだけど、疑って食べるような席にはしたくないと思って、ぜひおいしい給食を頂きたいとは願ってはいるんだけど、なんとなくここ数日の間に起きてきているこよがそういうことだから、何でっていう原因を探すよりも、逆にこれからどうするか、原因探して、犯人探したところでどうにもならない。これから信頼を回復して、子ども達にも喜んでもらえるような給食を提供していくということを、真剣にみんな考えないとダメだなと思って今いたんで、これは1つ今後の提言として出しておきたいなと思っております。

給食センターについても老朽化が著しく、一番修理箇所が出てきているのが給食センターなんです。安心安全な食を提供するっていうのは機器1つにサビが付いてもダメだし、この間も実は食品への混入の問題もあって、これも大きな問題になってるんだけど、保健所にまで届け出が行って保健所が調べに入るような、そういう状況になっているということも踏まえて、外部から遠目で見るのではなくて、中をよく監督・監視しながらやらないと本当に信頼を失ってしまうと心配しているので、我々もできるだけ修理箇所については、早急に直させるということを基本として、後回しにしたら大変なことになると思っていて、なんとか今出されている予算の関係については、議会にもお願いをしながら14日の議会で決めていきたいなと思っております。

時間にもなりましたが、その他ご意見ございますか。

なければ、これで報告事項の(2)学校給食の運

営状況についてを終了してよろしいでしょうか。

(「はい」の声あり)

それでは終わります。

次に(3)その他であります、何かご意見があればその他で伺いたいと思います。

報告事項

(3) その他

●説明員 (学校教育課長)

町長。

●木幡町長

岡野学校教育課長。

●説明員 (学校教育課長)

先週末から札幌市や函館市のほうで新聞に載っていますアスベスト、煙突用石綿断熱材の関係なんですけども、吹き付けアスベストの関係については、平成19年にスポーツセンターと福祉センター、それから国縫小学校のボイラー室のほうを除去しております。吹き付けについては既に除去は終わっているんですけども、煙突の石綿断熱材というのがありまして、こちらのほうは平成26年に規則が変わりまして、その時から文部科学省のほうで調査が始まりました。その時長万部町では、長万部小学校と長万部中学校のボイラーの煙突に使われているということが設計図上から確認されております。

現状においては、崩落や損傷などがないということで未措置のまま推移しております。ただ今回、札幌市や函館市であのような事例がありましたので、今後損傷状況やアスベストが含まれている石綿の飛散状況を調査して、必要であれば措置していかなければならないということで、現在業者等に問い合わせをしているところであります。

また、給食センターにつきましては、この調査対象とはなっていない石綿成形パイプというものなんですけども、こちらは管そのものに石綿が練り込まれているということで非常に飛散性が低いというものらしいです。ですけども、食品を扱っている場所でもありますので、こちらについても同様な対応をしていきたいと考えております。以上です。

●木幡町長

札幌では小中学校、函館もそうなんですけども今各地で出てきていて、制度がどんどんどんどん改正されてきて、今まで何ともなかったけどこの時期にきたらダメだという、使っちゃいけないという国の基準が変わってくるものだから、当然関わってくるものだと思うんですけど、現実的に2、3日前ですか、分かったのは30日かな。それで今朝、

自宅のほうに報道陣から電話がきて、取材に入るという電話なんで、それは担当が教育委員会だと、我々のほうの範ちゅうではないと話しておきました。

これも1つ時の流れと言うか、やっぱり1つ起きたら危機感を持たなければ、函館・札幌だから関係ないではなくて、うちはどうなんだっていうところからスタートして立ち上がりを早くしないと餌食になってしまいます。マスコミの餌食になる。ここはやっぱり絶対安心だというものじゃなくて、危機感を持ちながら、発生したら自分たちが責任を持って小中学校でも調査してみるとか、事前の立ち上げを早くすると、立ち上がりが遅ければ遅れるほどマスコミの餌食になってくるということだけ覚えといてね。

●説明員（学校教育課長）

今日の午後から道新が取材に来たいということできていました。

●木幡町長

今朝道新からもきたし、全部で2、3件電話入ったから、まだ役場に来る前の7時だったかな、そういうことで対応をきちっと間違わないようにしてもらわないと、町自体が騒動に巻き込まれることになるんで、よろしくお願いします。

その他で岡野課長からアスベストの関係についてお話がございました。これは先がどうなるかは調査してみて、問題があれば改善をしなければならぬ。改善をするということは、問題があるのは学校だけに、今後例えば授業に対する影響だったり、給食に影響するものであったり、保護者への説明であったりと様々な事態が発生してくるなど、これが新聞に出たら保護者は黙っていない。そういうことも適確に捉えて対応するようにしないといけないと思っているから、これは教育長が先頭に立ってってもらわないと困るんだけど、そういうことも含めてその他で今報告が岡野課長のほうからありました。これについてはこの時点で質疑は閉め切ります。よろしいでしょうか。

（「はい」の声あり）

それでは他にないようなので、以上で次第の3議題を終了し、議長の職を終えさせていただきます。

ありがとうございました。

閉会

●事務局（総務課長）

木幡町長どうもありがとうございました。

それでは以上をもちまして、平成28年第2回長万部町総合教育会議を終了いたします。どうもありがとうございました。

この後11時半から給食センターのほうで給食の試食を行いますので、よろしくお願いたします。

午前11時20分閉会